

研究主題「思いや意図をもって表現する力をはぐくむ指導の工夫」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
八王子市立川口小学校 教諭 石川 美幸

研究のねらい

音楽は、聴いたり演奏したりすることによって心がゆさぶられ、悲しみ、苦しみを分かち合い、明るく元気な気持ちになるなどの潜在的な力があり、感情が伴うものである。音楽科においては、児童自身が音楽のよさを感じ取り、それを生かして「このような演奏をしよう」と考え、一つ一つの音を大切にしながら自らの思いや意図を音に託して自己を表現する力を身に付けさせることが重要である。

小学校学習指導要領解説音楽編(平成11年5月)では、児童一人一人が感性を豊かに働かせながら楽しい音楽活動を展開していくことが述べられている。また、研究を進める中で、中央教育審議会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」(平成19年11月)が示され、感性を高め、思いや意図をもって表現する力を身に付けさせることの重要性が指摘された。これらのことから、音楽を直感的にとらえて表現するだけでなく、音や音楽に対して自らの思いを膨らませ、意図をもって音楽を表現する力をはぐくむための授業改善が必要であると考えた。

そこで本研究では、心に感じたことを言葉にしてイメージを膨らませる指導、聴き比べの活動によって音の特徴を感じ取る指導に着目した。そして、一つ一つの音に自分なりのこだわりをもって思いや意図を表現する力をはぐくむための指導の工夫を明らかにした。

研究の内容と方法

1 基礎研究

思いや意図をもって表現する力とは、表現しようとしている音に対してイメージをもち、イメージした音を思いながら自分なりに表現する力であると考えた。そのためには、音や音楽に対するイメージを膨らませること、音の特徴を感じ取りながらよりよい音を求めて工夫を重ねさせることが重要である。以下の2点を指導の工夫とした。

(1) 互いの考えを伝え合う活動、学習カードの活用によって表現したい音へのイメージを膨らませる。

教師の発問から感じたことを学習カードに記入し、音へのイメージをもつ。

絵本を見せたり、具体的な発問を行ったりすることでイメージを膨らませる。

感じたことを伝え合う活動、板書の工夫によって自らの思いや意図をもつ。

(2) 音探しや聴き比べの活動によって音の特徴を感じ取り、表現しようとする音に対して自分なりのこだわりをもたせる。

様々な楽器で音探しをしながら音の特徴を感じ取る。

教師や友達、自分自身が表現する音を聴き比べて音色や奏法の違いに気付く。

音探しや聴き比べの活動で気付いたことを自分自身の表現に生かす。

2 仮説

音へのイメージを膨らませたり、音の特徴を感じ取る指導を行うことで、思いや意図を音や音楽にこめて表現することができ、音楽を通して自己を表現する児童をはぐくむことができる。

3 実践研究

(1) 検証授業の実施

第2学年「きらきらぼしをすてきにしよう」の題材において、楽曲の雰囲気にあった音色を一人一人が考える活動を行った。

(2) 検証授業 指導計画

「一番星の音ってどんな音ですか」という発問を繰り返し行い、学習カードに音のイメージを記述した。打楽器を使って自分のイメージした一番星の音に合った音を探し、その音を楽曲の前奏とした。さらに、リズムを工夫させ、第4時では児童が考えた前奏を含め、発表を行った。

身近な楽曲がさらに美しくすてきになることに児童自身が気づき、美しく光る星への思いをもちながら一つ一つの音を大切に表現することで、思いや意図をもって表現する力が高まると考えた。以下の指導計画で検証授業を行った。

	【第1次】	【第2次】	【第3次】
ねらい	音色を工夫しながら一つ一つの音に興味・関心をもつ。	楽曲の雰囲気を感じ取り、音色とリズムを工夫する。	楽曲の雰囲気に合った音色で伴奏を工夫する。
活動内容	第1時 ・表現したい音へのイメージをもつ。 ・イメージした音を探す。	第2時 ・楽曲の雰囲気に合った音色を工夫する。	第3時 ・楽曲のふしに合わせたリズムを作って表現する。 第4時 ・楽曲の雰囲気に合った音色を工夫し、発表する。
イメージや意図を膨らませて	<ul style="list-style-type: none"> 「一番星の音」についてイメージしたことを伝え合う。 教師の具体的な発問によってイメージを膨らませる。イメージしたことを学習カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「一番星の音」へのイメージを学習カードに記入する。 学習カードに記入した内容を伝え合う。 板書に整理された意見を参考にしてさらにイメージを膨らませ、自分の思いをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2次までの板書の記録や友達の見解を参考に、「一番星の音」について自分なりの思いや意図を学習カードに記入する。
	期待される児童の姿 表現したい音へのイメージをもつ。	⇒ こんな音がいいなという思いをもつ。	⇒ 自分なりのこだわりをもつ。
自分のこだわりをもって表現する	<ul style="list-style-type: none"> 様々な楽器で音探しをしながら、一つ一つの音の特徴を感じ取る。 自分自身が表現する一つ一つの音を聴き比べて音色の違いに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達、自分自身が表現する一つ一つの音を聴き比べて音色や奏法の違いに気付く。 様々な楽器で音探しをし、自分のイメージに合った音を工夫する。 聴き比べの活動を通して音色や奏法の違いに気付く、自身の表現に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達、自身が表現する一つ一つの音を聴き比べて音色や奏法の違いに気付く、自身の表現に生かす。 楽器の音色、奏法を工夫し、自分のこだわりをもって音として表現する。
	期待される児童の姿 様々な音を聴いて、表現したい音へのイメージを膨らませる。	⇒ 自分のイメージに近づくように表現方法を工夫する。	⇒ こんな音にしようという思いを音として表現するための技能を獲得する。

(3) 検証授業の考察

互いの考えを伝え合う活動、学習カードの活用によって表現したい音へのイメージを膨らませる。

	学習内容・学習活動	教師のかかわり・主な発問	主な児童の反応
第一次 第一時	表現したい音へのイメージをもつ。 ・一番星の光る様子を思い浮かべ、自分の考えを発表する。 イメージをもたせる発問の工夫	音へのイメージをもつことができるよう、具体的な場面を思い浮かべられるような発問をする。 ・夕やけこやけの中でポツンと光っている星はどんな感じの星ですか。 ・その星に向かって「一番星みつけた」って声をかけたらどんな音で答えてくれると思いますか。 さらにイメージが膨らませられるよう、様々な色で描かれた星の絵本を紹介する。 ・このような一番星も見付けました。 ・思い浮かんだ音でいいですよ。	「星は鳴らない」 「分からない」 「キラキラン」 「ダイヤモンドに光る」 (絵本を見て) 「変な色」 「分かった先生、自分の考えた音でいいんだ」
	・学習カードに自分がイメージした音を書く。	書くことができない児童に星のイメージを質問する。 ・たくさんある星の中で一番きれいだなと思う星はどんな星ですか。 ・一番星見付けたと思った時にこんな音が鳴ったらすてきだなって考えて書いてください。	「チャリーンかな」 「どんな一番星にしようかな」 「遠くで光る星かな」
	・学習カードに書いた内容を発表する。 自分なりのイメージを膨らませる板書の工夫	音のイメージを膨らませられるよう、板書の意見を参考にすることを助言する。 色、大きさ、光り方、擬音による表現など、発表内容を分類し、板書する。 ・一番星に声をかけたらどんな感じの星がどんな音で答えてくれますか。発表してください。	表1 児童の発言内容

低学年の段階では思いや意図を言葉として発信するための語いの問題があり、学習カードを記述することに対して「音楽なのに書くの。」と抵抗感を示す児童もいた。「夕やけこやけの中でポツンと光っている一番星に呼びかけたら、どんな音で応えてくれるかな。」など、児童の実体験に結びつくような発問により、感じたことを言葉にする意識を高めさせることで、学習カードの記述を行うことができた。

学習カードに記述した意見を伝え合う場では、児童の意見を分類した板書の仕方が有効であった(表1)。擬音語一語のみの記述で終わっていた児童が多かったが、児童が出した意見を板書することで、友達の見解を照らし合わせながら自分のイメージを発展させていく様子がみられた。

表1【「一番星が光る音ってどんな音ですか」板書した児童の意見】

初めに出された意見は擬音語の表現が多かったため、「どんな感じで光っている星ですか」など、星そのものに関する発問をしたところ、

強弱に関する意見	音色(音の感じ)を表す意見	擬音語のみで表した意見
「少し」 「ずっと光る」 「元気に光る」 「すごい光る」 「ポツンと光る」 「光ったりやんだり」	「クリーム色で浮かんでいる感じ」 「新しい星」 「優しい感じ」 「かわいい感じ」	「ピカッ」 「シャンシャン」 「チャリン」 「キラーン」 「シャラララーン」 「チャンチャン」

強弱や音色にかかわる意見が出た。擬音語一語のみの記述していた児童は星そのものへのイメージを膨らませることができ、その他の記述を行った児童は音色に関する興味が高まり、擬音語で表現することができた(表2)。

表2【「一番星の音」イメージの広がり】

また、模造紙に意見をまとめて掲示することで友達の見解を参考にさせることができた。

M児	クリーム色、少し光る 空にゆらりと上がっている感じ ポワーンポワーンという音
----	--

音探しや聴き比べの活動によって音の特徴を感じ取り、表現しようとする音に対して自分なりのこだわりをもたせる。

「思いや意図をもって表現する力をはぐくむ指導の工夫」

音の特徴を感じ取るために様々な楽器で音探しを行ったが、楽器を鳴らすことを楽しむだけの児童が数名いた。そこで、一つ一つの音色の違いを感じ取りながら音探しをさせるために、聴き比べの活動を行った。第1次ではトライアングル、第2次ではすずの2種類の音色を教師が提示した後、互いの意見を伝え合った。

	学習内容・学習活動	教師のかかわり・主な発問	主な児童の反応
第1次 第1時	表現した星の音を探す。 ・様々な打楽器に触れて自分のイメージに合った音を探す。 ・学習カードに書いた内容を発表する。	様々な音を試すことができるようにトライアングル、すず、タンブリンなど何種類かの打楽器を用意し、一人ずつ気に入った楽器を選択させる。 ・ここにある楽器を使って、自分の一番星の音を探しましょう。	「星だから、トライアングルがいい」 「もっと長く伸びた音がいい」 「小さい音を出すのって難しい」
	こんな音がいいなという思いをもたせる聴く活動の工夫	表現の工夫につなげられるよう、楽器の持ち方やたたく位置によって、音色や響きが大きく変わることを助言する。 ・たたき方を変えるといろいろな音がします。 ・トライアングルで二つの音を鳴らします。違いが分かったら手を挙げてください。 音の特徴を感じ取ることができるよう、音色の異なった二つの音を提示し、音色の違いを発言させる。 ・どのような違いがありましたか。	「全然音が違う」 「音がピーンと伸びるのと伸びない」 「弱いと強い」 「やさしいと元気」 「先生の手の速さが違う」「ゆっくりたたくのと速くたたく」

第1次の音探しの際、「トライアングルで小さい音を出すのは難しい」とつぶやいたA児は、聴き比べの活動で「先生の手の動きが違うから音も全然違う」と発言し、その後は主体的に教師や友達の奏法を取り入れ、自分がイメージした「遠くで小さく光る星」の表現方法を工夫する姿がみられた。表3【B児の学習カード】

B児は、第2次に「天の川の星だから小さく長く伸ばしたい」という明確なイメージをもったが、第3次ま

「一番星が光る音ってどんな音？」	選んだ楽器	工夫した点
【第1次】さわやかなひかり	おはじきが入った袋	「しゃらしゃら」って音にするために叩き方を工夫した。
【第2次】天の川の中にある音	すず2つ	いろんな楽器を試して小さな音を探した。もっと音を長くのばしたかった。
【第3次】天の川みたいにシャラシャラした長い音	タンブリンと棒	棒でタンブリンの金具をくすぐると、小さい音で長く音が出せる。いい音がした。

で楽器が決まらず様々な楽器を試していた。毎時間、音探しの活動を行い繰り返すことで、児童なりに音色の違いを聴き取りながら工夫を重ね、最後の発表ではタンブリンのリングを棒でつつき、こだわりの音を表現していた(表3)。

研究の成果と課題

学習カードへの記述や互いの意見を伝え合う活動など、言語活動を組み入れた授業によって、児童なりに表現したい音へのイメージを膨らませ、考えを深めていくことができた。互いの意見を伝え合う活動を充実させるためには教師の発問が重要であり、児童の実体験に合わせた発問の工夫が必要であることも分かった。また、音探しや聴き比べの活動によって教師や友達、自分の出す一つ一つの音を深く感じ取ることができ、表現の工夫に生かすことができた。音楽づくりの活動は、思いや意図をもって表現する力をはぐくむ上で効果的な活動であることが分かった。

今回の研究を通して、低学年から音楽づくりの学習を系統的に積み上げていくことで、より一層音や音楽を通して自己を表現する児童をはぐくむことができると考えた。今後は、6年間を見通した系統性のある音楽づくりの指導計画作成について研究を深めたい。